

「誰か」ではなく「自分」から みんなで実践！ 両立しやすい職場づくり

仕事

育児

家庭



“働きがい”、“活躍できる仕事”が
企業の未来をつくる

実施しました

働き方の見直しに向けた取組

職場全体で仕事と育児・家庭の両立支援に取り組むことで、従業員の“働きがい”に加え、業務効率や生産性もさらに向上します。安心して長く働き、柔軟に活躍できる人材は業績アップの原動力となり企業の未来をつくります。

特定非営利活動法人 秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会 [秋田市]

業種: その他サービス業 従業員数: 3名 <http://www.akita-gt.org/>



テレワークとface to faceのコミュニケーションを使い分け

同法人は、グリーンツーリズム活動の振興、人材育成、情報発信などの事業を県内全域で実施するNPO団体です。農家105名を含む172の個人・団体が加盟し、各種講座、交流イベントを行っているほか、一般県民や旅行者を対象とした体験イベントなどを実施。大学生や若い世代を対象としたサポーター、援農ボランティアなどを養成し、ファンづくりも支援しています。

さらに、農家と旅行業者をつなぐ旅行サービス手配業へも業務を拡大。こうした事業はホームページなどを通じて配信され、国内外に秋田のグリーンツーリズムの魅力をPRしています。

活動の実務を担当しているのは3人の女性従業員で、事務局のある秋田市と県南地区の2カ所を拠点に事業を運営しています。しかし、県内全域をエリアとすることから移動時間・経費もかかり増しで、業務効率を妨げる要因にもなっていました。また遠距離通勤、育児や介護などそれぞれの状況も異なり、働き方を再検討する必要に迫られていました。

改善のきっかけとなったのが、平成29年度に県の新しい働き方の実証事業を機に導入したテレワークです。情報端末やクラウド

サーバーなどを整備し、自宅や移動先で月1回以上のペースでテレワークを活用。育児や看病・介護など、休暇を取得してきたケースであっても、在宅業務しながらの対応が可能になりました。企画立案、資料作成、ホームページ制作などのデスクワークは、職場より集中できるというメリットも得られています。

その一方、何気ない世間話や偶然の出会い等から、会員との絆づくりや事業の運営・展開に必要なヒントがあるなど、テレワークだけに頼らないface to faceの重要性も再認識しました。今後は、さらなるテレワークの可能性を模索しながら、活用方法を見極めていく方針です。

従業員から

事務局県南担当 柴田さん

テレワークなら子どもが病気のときも休暇を取らず、在宅で仕事ができます。作業目標や時間のルールを決めることで、職場と同様の効率を得たり、子どもと一緒にいられる安心感からモチベーションがさらに上がります。テレワークは職場との深い信頼関係で成立するものなので、自分なりの働き方を見つけて信頼にこたえたいと思います。



職場から

藤原事務局長

当初、職場を不在にすることへの不安もありましたが、時間をかければ周囲の理解も得られると思います。台風や豪雪時などの通勤負担を解消したり、仕事の内容に合わせて使い分けるとメリットも多いですね。また、テレワークの利点とともに、face to faceの出会いや情報交換の大切さを再確認する機会になりました。ちょうどよいバランスを探りながら事業展開に役立てていきたいと思っています。



あきた女性
活躍・両立
支援センター
からコメント!

テレワークへの取組は、これからの両立支援には欠かせないスタイルのひとつです。本県のテレワーク導入企業のさきがけとして、益々の成果を期待します。